



多様なアプローチの重要性

近藤 靖児
近藤皮膚科クリニック

皮膚科医として日々さまざまな皮膚病に接していると、同じ病気でも患者さんごとに感ずる症状に違いのあることを実感します。この現実直面する中で、多くの「引き出し」をもつことの重要性も改めて実感します。皮膚病患者さんの背景にはストレス、生活環境、食生活、さらには遺伝的要因といった多様な要素が存在します。たとえば同じ湿疹であっても、ある患者さんはストレスから症状が悪化しているかもしれないし、別の患者さんは食事が影響しているかもしれません。これに対処するためには、単一の治療法に頼るのではなく、幅広いアプローチを知り、患者さん1人1人に適した治療をみつける柔軟性が求められます。

最新の診療ガイドラインは、多数の研究データに基づいて策定されていますが、現場においては必ずしもすべての患者さんにフィットするとは限りません。ときには、ガイドラインに附随している治療がかえって逆効果につながることもあります。とくにステロイド治療に抵抗を示す患者さんには、ガイドラインの枠に捉われず、ほかの治療オプションを提案するなどの柔軟な姿勢が求められます。

皮膚科は新しい治療法や薬剤が頻繁に登場する分野です。生物学的製剤やデジタル診療、さらにホリスティックなアプローチなど、さまざまな選択肢が広がり続けています。それぞれの治療法、ときには民間療法などについてもそれらの効果や副作用

用についての知識をもち、患者さんに最適な選択肢を提示できることは、医師が担うべき重要な役割です。新しい情報に対して常にオープンでいることが、さらなる「引き出し」を増やすために不可欠です。

治療が成功するか否かは、患者さんとのコミュニケーションに大きく依存します。皮膚病に悩む患者さんは、見た目に対する敏感さをもっています。患者さんの不安やニーズを理解することで、よりよい治療法を選択できるでしょう。「引き出し」が豊富な医師は、単に治療を提供するのではなく、患者さんの声に耳を傾け、一緒に治療を考え、さらに治療目標を共有することができます。

若手の皮膚科医にとって、多様な「引き出し」をもつことは、患者さんとの信頼関係を築き、最適な治療を提供するために不可欠な要素です。そのためには、常に学び続ける姿勢をもち、各病気の最新の知識を吸収することに加え、患者さんの個性を尊重したアプローチを実践することが、確実にスキルを向上させる道となるでしょう。どんな診療場面においても、患者さんに寄り添い、適切な選択肢を提供できる皮膚科医を目指していきましょう。